

第3回平群町第6次総合計画等検討委員会 会議録

【日時】令和4年9月27日（木） 9：30～11：50

【出席者】10名

【欠席者】3名

【事務局】まち未来推進室：4名、コンサル（ランドブレイン）：2名

1. 開会

2. 町長及び会長挨拶

3. 議事および報告事項

①第2回検討委員会における意見等への回答について（資料1、参考資料1、2）

事務局：（資料説明）

山田委員： 前回の参考資料4について、ふるさと納税に関して平群産のぶどうの味に関する意見を述べたが、その産品はぶどうそのものではなく、平群産のぶどうを使用した酢が美味しくないとのことだったので訂正をお願いしたい。

②平群町第6次総合計画骨子（案）について（資料2、参考資料3）

事務局：（資料説明）

竹内委員： 計画期間について基本構想はほとんど変わらないかと思うが、基本計画はニューノーマルと書いているところもあり、時点で変えていかなければならないと思う。基本計画は決めたら5年間変えないものなのか。

事務局： 基本的にはその通りである。なにかあったら変更を行うというようなものではないが、社会情勢や町の情勢と合わせて、5年をめぐりに柔軟に対応を行いたい。

竹内委員： 9ページ目の防災行政無線とは町内放送を意味しているのか。

事務局： その通りである。

竹内委員： 自分の家からでは町内放送は聞こえない。スマホで情報発信を行ってはどうか。他にスマホで医者と繋がれるアプリなども可能性がある。

事務局： 総務防災課が防災メール発信を行っている。また、スマホの使い方講座も総務防災課が企画している。現課にご意見を伝えるが、取り組みを行っている部分もある。

- 竹内委員：DXのような話があるが、まず目先としてはんこレスの取り組みは進めているか。
- 事務局：請求書や国・県からの書類などやむを得ないもの以外から、近年はんこレスを進めている。
- 竹内委員：平群中央公園がずっと整備中になっている。今ある遊具のリソースを活用するのがよいと思っている。中央公園の遊具はいつ整備されるのか。
- 事務局：中央公園の整備進捗は所管課に確認を行う。遊具の整備については、順次取り換える作業を行っており、その計画についても所管課に確認を行う。
- 北川委員：三郷町が国からのSDGs未来都市の認定を受けると聞いたが、平群町に予定はあるのか。
- 事務局：平群町は現在予定がないが、SDGsについてはまち未来推進室にてホームページで情報発信を行っている。また、広報誌での発信も予定している。
- 北川委員：申請は大変なことなのか。三郷町は一番に認定を受けたと聞いた。
- 事務局：申請の大変さは認知していないが、平群町においてもSDGsの推進に向けて深く取り組む必要があると思う。
- 北川委員：19ページについて、以前奈良県知事にお会いした際、平群町には長時間滞在する施設がないという話をした。取り組みや民間活力の向上に期待している。
- 松名委員：中学生アンケートを深刻に受け止めねばならない。観光ガイドを行っているうえで郷土愛が染みわたっていないと感じる。平群中学校の校章のいわれを知らない、ましてや信貴山が平群町にあると知らなかったという状況である。
すばらしい文化財や自然について学校における教育が不足している。
バラ園での課外活動等学校だけでなく、ボランティア等と連携しながら実施してほしい。
- 事務局：平群町ってどんなまち？と聞かれて答えられるようなまちづくりを今後も進めたいと思っている。
平群町は住宅都市であったこともあり、以前はハイキングコースの整備・広報の取り組みを観光事業の中心として行っており、平城遷都1300年祭ごろから文化的な観光を推進しているという側面がある。どのようにまちづくりに関連させるかを踏まえながら取り組みの推進を行いたい。

山田委員： 五條市の魅力を発掘するモニターツアーに参加した。地域の観光資源を訪れ、アンケートに回答してもらうような企画もおもしろいと思う。また、上手にお金を落とすしくみができていると感じたので、平群でも観光消費の活性化を意識してほしい。

岡田委員： 6 ページについて、人口の状況は全国的な少子高齢化により減少が予測される。近隣の市町村はどうかを聞きたい。
財政については、少なくとも 15 年間ずっと同じ文章を見ている気がする。財政健全化計画がどのように進んでいるかがわからない。現状分析が必要ではないか。

事務局： まち未来推進室で独自にとりまとめた資料を作成しており、概要をご説明する。

平群町の減少幅が 7%であり、三郷町は平群町よりも減少幅が少ない(-0.2%)。また斑鳩町についても減少をしているが平群町よりも減少幅が少ない(-1.3%)。安堵町は人口規模が小さいが、減少幅は平群町よりも大きい(-8.1%)。王寺町は人口が増加している。

財政状況について、ご指摘の通りここ 10 年以上厳しい。大きな問題は将来負担比率であり、公債費を平常に戻す働きを行っている中で第 6 次総合計画の取り組みを計画的に行う所存である。文章についても検討を行う。

長良委員： 総合計画策定の背景と位置付けの一文目に、目指すべき方向性を明確にするとある。

第 5 次総合計画の課題に取り組めたのか、第 6 次総合計画の課題に予算が付けられて取り組みができるのか、また何に重点をおいて行うのか、総合計画策定の背景と位置付けに記載があるべきではないか。

事務局： これまでの計画があるなかで、第 6 次総合計画にどうつなげていくかについては第二部に記載しており、今から説明する。

総合計画策定の背景と位置付けにどう今までの計画を反映するかについては今後も検討する。

長良委員： 通読する中で、第一部の記載がこのようでは、本編全てに目を通してもらえないのではないかと。次につながるように検討してほしい。

種坂副委員長： 松名委員がおっしゃった件について、小中学校への取り組みを進めるべきかと思う。一方で、中学生アンケートについては、積極的に地域外に出ていくことも大切かと思うが、郷土愛を理解したうえで話かと思う。

この間の4,000円の支給は県・国から出ているのか。

事務局： コロナ対策関連の、国からの交付金である。

種坂副委員長： 町財政に影響がないという理解で良いか。

事務局： 国の予備費等を活用し、町のほうで交付等の施策を考えている。その中で不足分は、町財政が負担している。

種坂副委員長： もう少し子育て世帯に有効な補填があってもよいと思う。

7ページ目に社会増減の増加のデータがあるが、平成27年以降増加しており、要因と転入者の年齢層を聞きたい。

事務局： 平成27年の新規こども園の開設、高3まで医療費の無償化の実施が転入増加の要因だと考えている。また直近では23%が30～39歳、次いで22%が20～29歳の合計45%くらいが若い世代の転入者である。

種坂副委員長： 子ども・子育て施策の効果が出ているということか。

事務局： そのように考えているが、自然減が進む中で社会増をさらに増やすべく、子育て支援に力を入れる所存である。

山田委員： 転入してきた人からの意見で、子どもの遊ぶ場所がなく、支援センターも半日しか使えないということを聞いている。

事務局： 支援センターは通常時は一日開けているが、コロナ禍から人数制限、時間を区切ったの利用を実施している。

中山会長： 若い世帯からの転入増加というのがピンとこない。人口ピラミッドを見ると団塊世代の子ども・その子どもはあまり県・国と変わりがないが、その他の世代に差異がある。この世代をどうしていくかが非常に大切である。

事務局： 20,30代については、転入が多い一方、転出についても多い世代となっている。

中山会長： 20, 30 代が住むような対策が必要であり、そのためには環境と住まいが重要である。

地域への愛着について、小中学校への取り組みは進めたらよいと思う一方、平群町で生まれたわけではない人も居住している現状があるはずである。転入者が地域の理解を進める取り組みが必要である。

21 ページの⑤の「人口流入の受け皿となる土地利用の見直し」をそのまま読むと、宅地開発、調整区域を市街化区域に、ゆるやかな住居系施策のイメージを受ける。この記載は何を意味しているのか。平群町が現在人口増加の傾向であればこの記載で問題はない。かつて開発された地域で人口減少がみられる地域の住みやすさの向上や空き家対策を考えていくといったことなのか。人口減少の現状があるうえで土地利用の見直しをするというのは違和感がある。

長良委員： 将来人口推計について、人口減少が進む中、転入の推進と出生率の向上のどちらを優先するのか。人口増加を推進する施策の決め手にかけると感じている。現在の人口を保ちつつ財政を健全化するためのインパクトがある施策が求められる。

事務局： 6 ページにあるように、現在平群町には少ない年齢層と多い年齢層が顕著に表れており、人口割合の多い年齢層については今後死者が増えると予測される。

平群町において人口減少が進むと予測され、そのうえでどういった施策を形作るかを今回皆様と議論を行っている。

今のご意見のように、現状の人口を保つということではなく、全体の減少を見据える中で、社会増を増やすような施策に力を入れたいと考えている。

長良委員： 総合戦略として、現在の人口を保つということを目標とする計画を立てている自治体もあり、参考にするべきではないかと思う。人口減少を前提とするというのは計画ではない。

岡田委員： “選ばれるまちになるための施策” では、全国的に少子高齢化が進行する中、町同士で人口の取り合いをするように読み取れる。住んでいる住民が満足するまちを目指すことが重要ではないか。それをどのように行うか、基本理念の中に入れ込むべきと思う。

事務局： 第6次総合計画は町の計画であり、重点政策である“選ばれるまちになるための施策”のみを行うのではなく、“住民の暮らしを支える施策”等についても実施していく。様々な面から、町民の満足度を重んじていく所存である。

中山会長：確かに、「選ばれるまち」という表現がよそから取ってくるようなニュアンスを感じる。移住環境を整備する、町内にも魅力を発信するといった、引き続き居住してもらうことを目指したニュアンスが必要かと思う。

参考資料3について、出生率を1.6にするのはよいと思うが、上がり方が急であり、なだらかにした方が現実味があると思う。また、町が変わっていけば1.6以上になるのではないか。上がり続けるような見せ方を行うべきかと思う。

事務局：段階的な形に修正する。

ランドブレイン：そもそもなぜ転入施策を重んじるかについて、死亡者数推計によると平群町は今後死亡者数が大きく増加し、持ち家率が高い平群町においては空き家が増加するため、その利用が大きな課題となる。都市基盤の維持を考えると転入の促進が必要であると考えている次第である。

岡委員：20年後には人口が8000人ほどになっていると思う。過去の政策から20代、30代が流出し、いびつな人口構成となっている。流出を止める形をとることが優先で、他地域からの流入を重んじなくてもよい。

人口は減ってもよいので、いびつな人口構成を直す必要があり、子育て世帯に対する無償補助等と、残っている人が幸せに住めるような施策を行うべきと考える。

事務局：施策体系表について、選ばれるまちという表記を、平群町に住んでいてよかった、住み続けたいという印象の表現に調整する。

山本委員：第5次総合計画の反省については、的確に調べていただいていると思う。第6次総合計画についても第5次総合計画の引用ではなく、わかりやすくなっていると感じる。わたしの中では第6次総合計画は夢のあるものかとおもうので、委員からのご意見もとりいれつつ改善していく必要がある。

将来都市構想図は第5次総合計画からあるが、観光拠点等が第6次総合計画ではまとめられている。これについては第5次総合計画から継続して出したほうが良いかと思う。

事務局：将来都市構造図は都市計画マスタープランからの引用を行っている。

都市計画が変わる可能性があることもご理解いただきたい。

松名委員：きれいな文章として書いているが、心がこもっていないので、自分の言葉で短くわかりやすく記載するようにした方が良いのではないか。

注釈が書いている場合もあるが、できるだけわかりやすい表現を心掛けること。横文字を多用すると意味が通りづらくなる。

竹内委員：資料の節々に自然を町の魅力に位置付けている表現があるが、中学生アンケートで「自然が多すぎる」という意見があるため、自然の多さを具体的な魅力に変えていく思考が必要かと思う。平群町で幼少期を過ごした人が戻ってきたくなくなるような取り組みが求められる。

中山会長：体系図について、総合戦略ではなくデジタル田園都市国家構想総合戦略になるかと思う。デジタルに関連のあるものしか入れられない構想になることが予測される。年内に国から詳細が発表されて、パブリックコメントを1月に行うとすると時間的に厳しいように思うが、政府のスケジュールとどう整合をとるのが重要になる。

町として交付金をぜひとりたい事業を重点的に書く必要がある。

北川委員：総合計画を作ると補助金がもらえるのか。

中山会長：総合計画ではなく、デジタル田園都市国家構想総合戦略に盛り込むことで交付金が補助される。町として総合計画に記載したうえでデジタル田園都市国家構想に沿った項目だてが必要である。どのようにデジタル化をすることで推進を図るか検討を行う必要がある。

4. その他

委員長：最後に、次第「4 その他」について何かあるか。

事務局：次回の開催について、12月をめどに行いたい。会長とも日程調整した上で、改めて連絡する。今後も議論をお願いします。

以上